

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入		事業実施主体	市
	事務事業	公共交通維持改善事業（交通政策課分）		事業期間	平成29年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	生活バス路線への運行補助、宇高航路、離島航路に対する補助及びノンステップバス購入に対する補助などを行うことで、公共交通の維持や利便性の向上を図り、良好な交通環境を確保する。 ・生活バス路線補助（路線バス及びコミバス等に対する運行補助、コミバス等の導入検討に対する支援、ノンステップバス減価却費補助等） ・IruCaシステム運用支援（機器補助、割引差額補助） ・宇高航路補助 ・離島航路補助				
	30年度概要	生活バス路線への助成 宇高航路への助成 コミュニティバス施設等管理費			
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト 2-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）	

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	「公共交通の利便性の向上」及び「地域主導型の持続可能な公共交通の構築」を図ることで、移動しやすく利用しやすい交通環境を確保し、公共交通に対する満足度を高める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
コミュニティバス等利用促進協議会開催回数	回		7	7	8	8

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
公共交通機関利用率	%	目標値		15.3	15.5	15.7	15.7
		実績値		14.7	15		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 当該指標は、平成19年度の実績を基準年度として、毎年一定の利用者増（累積）を目標として掲げている。 前年度実績に比べ、公共交通機関利用者数は、約900人増加し、利用率も0.3%上昇したものの、20年代前半に利用者数が大きく減少したことの影響により、目標値の達成には至らなかった。		(目標達成度)					(達成度) 96.8% 33点
コミュニティ交通路線数	路線	目標値		6	7	8	8
		実績値		5	5		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） コミュニティバス等の運行や変更を希望する地域住民が設立する組織に対し、資金計画等を策定するための活動等を支援する制度の活用を働き掛けるとともに、地域が主体的に関わるコミュニティ交通の必要性などを周知・啓発することで、公共交通空白地帯へのコミュニティ交通の導入を図る。		(目標達成度)					(達成度) 71.4% 24点

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	133,734	107,998	105,846	115,831
（事業費）	[千円]	114,541	94,651	92,948	102,933
（職員人件費）	[千円]	19,193	13,347	12,898	12,898

【評価】

評価ランク (A～D)	B	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	改善継続
-------------	---	---------------------------	------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

ノンステップバス購入や公共交通空白地域に対するコミバス等の運行支援など、良好な交通環境の確保に努めた。今後はバス路線の再編に伴い、補助制度の適用対象外となる路線が発生することも想定されるが、路線維持確保のため事業を継続することが適当である。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

小型・中型ノンステップバス購入補助の継続や、コミバス等の運行に対する支援制度の改善など、持続可能な公共交通ネットワークの形成に取り組んでいく。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入		事業実施主体	市
	事務事業	公共交通利用促進事業（交通政策課分）		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	多様な交通手段が有機的に連携した、快適で人にやさしい都市交通の形成を図るため、過度に自動車に依存しない本市の目指すべき都市交通の将来ビジョンを明らかにした「総合都市交通計画」や、平成25年9月に公布・施行した「公共交通利用促進条例」に基づき、各種施策・事業の推進や市民啓発活動等を行う。				
30年度概要	総合都市交通計画推進協議会 公共交通利用促進事業（乗継・高齢） バス運行補助金等（ネットワークバス、バス待ち環境、バスマップ） 総合都市交通計画見直し MM				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	総合都市交通計画や公共交通路用促進条例の理念に基づき各種施策を展開することにより、公共交通の利便性向上と利用促進を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回		3	3	3	3

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
施策全体の満足度（市民満足度調査）	%	目標値		21	22	23	23
		実績値		21	18.1		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 各種施策・事業の推進を通じた、公共交通の利用に対する機運の醸成等により、「公共交通の利便性の向上」に係る市民満足度については、昨年度に比べ減少し、年度目標値についても達成できなかった。 (目標達成度)			(達成度) 82.3% 28点				
成果指標名（どのような成果が得られたか） 公共交通機関利用率	%	目標値		15.3	15.5	15.7	15.7
		実績値		14.7	15		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 当該指標は、平成19年度の実績を基準年度として、毎年一定の利用者増（累積）を目標として掲げている。前年度実績に比べ、公共交通機関利用者数は、約900人増加し、利用率も0.3%上昇したものの、20年代前半に利用者数が大きく減少したことの影響により、目標値の達成には至らなかった。 (目標達成度)			(達成度) 96.8% 33点				

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	236,785	185,964	316,286	241,898
（事業費）	[円]	216,057	170,262	304,905	230,517
（職員人件費）	[円]	20,728	15,702	11,381	11,381

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	拡充
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
公共交通の利用者数（率）は増加したものの、「公共交通の利便性の向上」についての市民満足度は低下していることから、改善に向けた利便性向上への取組は重要であり、事業を拡大する必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
交通事業者など、関係機関と更なる連携の強化により、利便性を高める施策を実施するとともに、効果的な情報発信や市民意識の醸成・改革などモビリティ・マネジメントについて検討・実施する。			

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入		事業実施主体	市
	事務事業	新都市交通システム導入検討事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	高齢者を始めとする交通弱者の利便性向上や環境負荷の軽減、中心市街地の活性化を図るため、人々が快適に移動することができる、BRTやLRTを始めとする新交通システム導入の可能性等について、学識経験者、交通事業者等で構成される「総合都市交通計画推進協議会」等において検討を行う。				
30年度概要	大型車両購入補助金 新交通システム導入検討調査				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	既存ストックの有効活用を踏まえ、公共交通機関の利便性を向上させる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回		3	3	4	4

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	施策に関する市民満足度（公共交通の利便性の向上）	%	目標値		21	22	23	23
			実績値		21	18.1		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 各種施策・事業の推進を通じた、公共交通の利用に対する機運の醸成等により、「公共交通の利便性の向上」に係る市民満足度については、昨年度に比減少し、年度目標値についても達成できなかった。	(目標達成度)						(達成度) 82.3%
			28点					
	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	(目標達成度)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	3,071	7,151	8,726	12,235
（事業費）	[円]		4,796	5,691	9,200
（職員人件費）	[円]	3,071	2,355	3,035	3,035

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

新交通システムの導入には、道路空間の再編が不可欠であり、定時性や速達性を確保するための専用レーンの設置や市民意識の醸成に向けた取り組みを検討するなど、事業を継続することが適当である。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

道路空間の再編に向け、公共交通の利用促進とマイカー利用の抑制に繋がる施策の展開と、関係部局と連携し本市における新交通システムの在り方や、導入に向けての課題整理等に取り組む。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2455
	基本事業	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入		事業実施主体	市
	事務事業	公共交通利用促進事業（都市計画課分）		事業期間	平成28年度～平成33年度

【事業全体概要】

事業の概要	バス利用者の駐輪需要に応えるため、高松市自転車等駐車対策総合計画に基づき、バス運行事業者を支援することで、郊外のバス停留所への駐輪場整備を推進するもの。				
30年度概要	C & B R 駐輪場の整備 1箇所（10台）				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	インフラ・施設等整備

【事業の目的】

対象（何を）	郊外バス停留所
意図（どのような状態にしたいか）	バス停留所周辺への自転車の放置を解消するとともに、バス利用者の利便性を向上させることにより、自動車からバスへの転換を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
C & B R 駐輪場整備台数	台		112	119	130	130

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	C & B R 駐輪場利用者数	人/日	目標値		58	66	75	75
			実績値		56	58		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値を達成することは出来なかったが、利用者数は着実に増えて来ており、利用者の利便性の向上に貢献することができた。	（目標達成度）						（達成度） 87.9%
								30点
	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	（目標達成度）						（達成度）

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	3,149	3,396	2,285	2,305
（事業費）	[円]	692	177	85	105
（職員人件費）	[円]	2,457	3,219	2,200	2,200

【評価】

評価ランク（A～D）	<b>B</b>	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	<b>改善継続</b>
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
ことでんバス健康ランド前バス停において7台分の自転車駐輪場を整備した。用地については無償使用が前提となっているため、利用しやすい近距離での用地確保が課題である。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
限られた予算の範囲内で事業効果の高い箇所での整備を行う必要がある。			



平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2455
	基本事業	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入		事業実施主体	民間企業
	事務事業	公共交通維持改善事業（都市計画課分）		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	公共交通を維持し、良好な交通環境を確保するため、鉄道事業者が実施するバリアフリー化事業費の一部を支援する。また、公共交通利用者への利便性の向上のため、パークアンドライド施設の維持管理を実施する。			
30年度概要	公共交通旅客施設バリアフリー化整備補助金（JR高松駅、琴電仏生山駅） パークアンドライド駐車場の運営・管理費（空港通り駅・国分駅・仏生山駅）			
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型


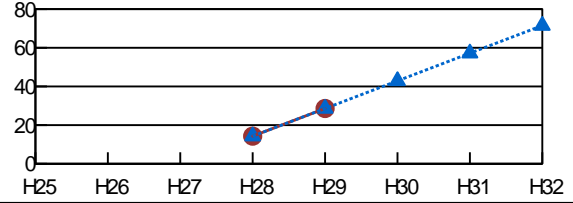
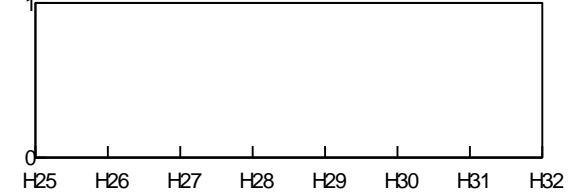
【事業の目的】

対象（何を）	鉄道事業者（琴電）が管理する施設 パークアンドライド駐車場
意図（どのような状態にしたいか）	鉄道事業者（琴電）が実施する駅施設のバリアフリー化（スロープ・点字ブロック・手摺・多目的トイレ等の設置）の推進を目的とし、補助金を交付する。 パークアンドライド駐車場を適正に維持管理し、利用者が安心・快適に使える空間を提供する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
バリアフリー化率	%	目標値		14.3	28.6	42.9	100
		実績値		14.3	28.6		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 琴電仏生山駅のスロープ、点字ブロックの設置が完了し、目標どおりバリアフリー化が進捗した。 	(目標達成度)						(達成度) 100.0% 35点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]		9,403	12,837	18,111
（事業費）	[円]		1,316	5,022	10,296
（職員人件費）	[円]		8,087	7,815	7,815

【評価】

評価ランク（A～D）	<b>A</b>	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	<b>継続</b>
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 琴電仏生山駅のスロープ、点字ブロックの整備が完了し、目標どおりバリアフリー化が進捗した。パークアンドライド駐車場については、仏生山駅の施設整備を進めている。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 駅施設等のバリアフリー化を引き続き推進するとともに、パークアンドライド駐車場を広く周知し利用促進を図る。			